

近畿2021.2.11

問2

7～12まで順に、オ、キ、エ、カ、ウ、イ

解き進め方と戦略

この種の問題を解く際は、以下のステップを踏むのが効率的である。

1. 選択肢の品詞を分類する: 名詞、形容詞、動詞(分詞含む)などを把握する。
2. 文脈から品詞を特定する: 空欄の前後を見て、名詞が入るべきか、形容詞が入るべきか等を判断する。
3. 意味の対比や具体例に注目する: 特に「逆説(but, while, rebelled)」や「具体例(waves, clouds)」に注目すると、正解を絞り込みやすい。

今回は、意味が明白な形容詞や動詞の用法から埋めていくのがスムーズである。

各空欄の解説

1. 形容詞を埋める:(8) と (9)

形容詞は名詞を修飾するため、文脈との整合性が取りやすい。

• (8) キ. rigid

• 直後に "formal style of classical ballet" とある。イサドラ・ダンカンはこれに「反抗(rebelled against)」したため、自由な彼女のスタイルとは対照的な「rigid(硬直した、厳格な)」が適切である。

• (9) エ. flowing

• "loose, (9) Greek tunic" という表現から、ギリシャ風のチュニックの性質を表す言葉を探す。「ゆったりとしていて、flowing(流れるような)」服というのは、彼女のダンススタイルとも合致する。

2. 動詞の語法・連語で考える:(10) と (7)

• (10) カ. mirror

• "used dance movements to (10) the waves of the sea"

• 不定詞 to + 動詞の原形 の形である。海の波や雲の動きをダンスで表現するという文脈から、「mirror(～を映し出す、反映する、模倣する)」が選ばれる。

- (7) オ. generation

- "taught a (7) of dancers"

- a generation of ～(一世代の～)という定型表現として機能する。彼女が後の世代のダンサーたちに影響を与えたことを示している。

3. 文脈のコントラスト(対比)で考える:(11)

- (11) ウ. failures

- "Early (11) gave way to triumphant performances"

- give way to ～(～に取って代わられる)に注目する。後半が「勝利に満ちた(triumphant)公演」であるため、前半はその対照となる「failures(失敗)」が入る。初期の失敗を経て成功を収めたというストーリーになる。

4. 文法構造(分詞構文)で考える:(12)

- (12) イ. establishing

- "She lived in Europe..., (12) dancing schools..."

- 文が一度完結した後のコンマがあるため、付帯状況を表す分詞構文を疑う。「子供のためのダンス学校をestablishing(設立しながら)」という文脈が成立する。

補足:使用しなかった選択肢

- ア. career:(7)に入れることも文法上は可能だが、"a career of dancers" という表現は不自然である。

- ク. theaters:場所を表す語だが、文中のどの空欄に入れても文脈が成立しない。

全文和訳

舞踊家イサドラ・ダンカンとは、ダンスにおける大胆かつダイナミックな革新者であった。彼女は、自分自身の極めて個人的なダンスのスタイルを他人に教えることにはあまり成功しなかったが、ある**世代(generation)のダンサーたちに、自分たち独自の表現形式を信じることを教えた。彼女は、クラシックバレエの厳格(rigid)で形式的なスタイルに反旗を翻した。ギリシャの芸術に触発された彼女は、通常、ゆったりとした流れるような(flowing)ギリシャ風のチュニックを身にまとい、裸足で踊った。彼女はさらに自然の中にインスピレーションを見出し、海の波や流れゆく雲を映し出す(mirror)**ためにダンスの動きを用いた。

イサドラ・ダンカンは1878年にサンフランシスコで生まれた。彼女は1899年に初公演を行った。初期の失敗(failures)は、ブダペスト、ベルリン、ロンドンでの輝かしい公演に取って代わられ、最終的には1908年、アメリカへと戻った。彼女は人生の大部分をヨーロッパで過ごし、そこで子供たちのためのダンス学校を設立した(establishing)。1927年、彼女はフランスのニース近郊で、乗っていたオープンカーの車輪に長いスカーフが巻き込まれるという不慮の事故により亡くなった。

大門3

13. 解答:エ (to know)

- 和訳: もし万一彼女がそのニュースを知れば、ひどく怒るだろう。
- 解説: 仮定法未来の倒置の問題である。もともとは If she were to know... という形だが、if が省略されると、主語 she と動詞 were が入れ替わり(倒置)、Were she to know... となる。
- ア・イ: Were の直後に現在分詞や過去分詞が続く形はここでは成立しない。
- ウ: Were という仮定法の過去形に対し、直説法の knows を使うことはできない。

14. 解答:ウ (which)

- 和訳: その男はファッションモデルのように見えたし、実際そうだった。
- 解説: 非制限用法の関係代名詞の問題。ここでは which が直前の a fashion model という「属性・役職」を指し、he was (a fashion model) の補語の役割を果たしている。
- ア: that は非制限用法(コンマの後)では使えない。
- イ: what は先行詞を含むため、直前に先行詞 a fashion model がある場合は不可。
- エ: 人の属性や職業、役職を指す場合、通常 who ではなく which を用いる。

15. 解答:エ (won't)

- 和訳: 近いうちに私を訪ねてくれるよう、お父さんに頼んでくださいね？
- 解説: 命令文に続く付加疑問文の問題。肯定の命令文に対し、「～してくれますね」と念押しや依頼をする場合は will you? や won't you? を使う。
- ア・イ・ウ: 命令文の付加疑問では、元の動詞にかかわらず will 系が定型として使われるため不適切。

16. 解答:ア (curry powder)

- 和訳: 大正時代、輸入カレー粉の市場シェアは、国産カレー粉のそれ(シェア)よりも大きかった。
- 解説: 比較対象の繰り返しを避ける語法の問題。

- なぜ「ウ. one」はダメか：代名詞 one は「数えられる名詞(可算名詞)」の代わりとして使われる。しかし curry powder(粉末)は数えられない名詞(不可算名詞)であるため、one で受けることはできない。
- なぜ「ア」が正解か：不可算名詞を繰り返す場合、英語では代名詞を使わずに名詞をそのまま繰り返すか、形容詞(domestic)のみで止める。選択肢に名詞があるためこれが正解となる。
- イ: it は前出の特定の「輸入カレー粉」そのものを指すため、比較が成立しない。
- エ: that は the + 名詞 の代わりとして使われるが、この文では既に文中の that of の that が market share を指している。さらなる that の使用は不自然。

17. 解答:イ (as)

- 和訳: 暗かったけれども、私は家へ帰る道を見つけた。
- 解説: 譲歩(～だけれども)を表す接続詞 as の語法。<形容詞+as+S+V> という特殊な語順で、「～だけれども」という意味を表す。
- ア・ウ・エ: これらの接続詞は、形容詞を文頭に持ってくるこのような倒置の形を取ることはできない。

18. 解答:エ (Unless)

- 和訳: 時間を浪費するのをやめない限り、君は選手権で優勝することはできないだろう。
- 解説: 条件の接続詞の問題。「～しない限り」という意味の Unless(= if ... not)が文脈に合う。
- ア: Although(～だけれども)では、「やめるけれども勝てない」となり、文脈が矛盾する。
- イ・ウ: During も In spite of も前置詞(句)であり、後ろに S+V の節を置くことはできない。

19. 解答:イ (have finished)

- 和訳: 読み終えたら、その本を貸していませんか。
- 解説: 時を表す副詞節内の時制。when の節内では、未来のことでも現在形を用いる。ここでは「読み終える」という完了のニュアンスを強めるため、現在完了形の have finished が正解。
- ア: had finished(過去完了)は、主節の未来の依頼と時制が合わない。
- ウ・エ: 時を表す副詞節の中では、助動詞 will を使うことはできない。

20. 解答: ア (enclosed)

- 和訳: 契約書に署名し、できるだけ早く同封の封筒に入れて返送してください。
- 解説: 分詞による後置修飾。封筒(envelope)と「同封する(enclose)」の関係は、「(何かが)同封された封筒」という受動の関係であるため、過去分詞 enclosed が envelope を修飾する。
- イ: enclosing(現在分詞)では、封筒が自ら何かを同封している動作中になり、目的語も欠けているため不自然。
- ウ: 関係代名詞節にするなら、that encloses [something] のように目的語が必要。
- エ: to enclose(不定詞)では「同封するための(目的)」となり、文脈上の「既に用意された封筒」という意味に合わない。